



新聞記事より

学校長 岡本 敏樹

川にウナギ戻るように 市川の児童 幼魚放流



市川町立瀬加小学校の児童たちが31日、同町上瀬加の岡部川で、ウナギの幼魚約5千を放流した＝写真＝。

岡部川ではかつて、ウナギなどがよく釣れたが、近年はカワウによる食害や環境の変化で減り、岡部川漁業協同組合が約10年前から、ウナギやアマゴ、ニジマスの放流に取り組んでいる。

子どもたちの放流は環境学習の一環として2018年度から実施。この日は1～3年の児童計37人が、バケツに入れた15～30千のウナギの幼魚を川へ流した。

「昔の川に戻ったらいいな」と思いながら放流した。楽しかった」と笑顔を見せた。同漁協の組合長を務める岩見武三町長は「自然豊かな市川町で、子どもたちに自然との共生の大切さを学んでもらいたい」と話した。

5/31に1～3年生が行ったウナギ放流が、読売新聞と神戸新聞に掲載されました。左記事は読売新聞です。神戸新聞の内容もほぼ同じですが、インタビューにこたえた児童が違います。この左の読売新聞では3年生の長尾さんがこたえています。また、神戸新聞では次のような記事です。

3年生の小林君(9)は「元気に育っておいしいウナギになってほしい」と笑顔を見せた。

町の「広報いちかわ(7月号)」には、3年生の木村さんのインタビューが掲載される予定です。放流の様子は6月2日夕方のNHK「Live Love ひょうご」でも放映されました。

記事にあるように、かつては岡部川にウナギがいました。私も幼いときに父と「付け針」をして捕っていました。養殖ウナギは30cm程度で出荷しますが、川では1mぐらいの大きさになります。新聞記事に「環境の変化」と書いているのは、護岸工事のことです。コンクリートで固められウナギのすみかとなる岩の隙間が少なくなっています。

岡部川のウナギは少なくなりましたが、他の魚はどうでしょう。この瀬加にどんな魚がいるのか、それを瀬加ではどう呼んでいるのか、またいずれ紹介していきたいです。

水泳の昔と今

前回は水泳指導について記載しました。今回はその続きとして、昔と今を対比します。

【保護者世代の当たり前 →今はない】

◆洗体槽(せんたいそう)

保護者世代なら誰もが経験したのが、洗体槽(せんたいそう)です。「腰洗い場」とも言っていました。シャワーの前にまずはここを通りました。水が張っており20人ほどが入って、腰までつかります。両手を頭の上にして、10あるいは20数えていました。ここは高濃度の塩素水で下半身の殺菌をする場所です。きつい塩素水が目に入ってはいけないので、ばしゃばしゃ水しぶきをたてるのは厳禁でした。洗体槽は毎日水を替えるので、1時間目や2時間目の水泳授業ではとても冷たかったものです。

今の新設のプールでは、この洗体槽はありません。瀬加小のように古い設計のプールにはありますが、もう使用はしていません。かつてはプール本体の塩素濃度が安定しなかったため、洗体槽で殺菌をしていましたが、今は、薬剤注入装置の向上で不要となりました。

洗体槽の強い塩素水は、皮膚が過敏な子にとっては害であるし、それが毎日排水されて、用水路に流れこむことも問題であったのです。

◆水泳後の洗眼

保護者世代では、U字形で上向きに水の出る蛇口を覚えておられるでしょう。水泳終了後にここで「目をパチパチ」して洗眼していました。蛇口をひねって勢いよく出し過ぎたら噴水みたいになったものです。この「目をパチパチ」も、今はしていません。

しなくなった理由は、水泳後の洗眼の必要性はなく、逆に洗いすぎると角膜のために良くないという医学的な見地からです。洗眼することよりも推奨されたのが、ゴーグルの着用です。保護者世代では水泳授業でゴーグルはしていなかったでしょう。ゴーグルなんて、水泳大会に出る競泳選手だけのものでした。体育の授業ではみんなゴーグルなしで、水中で目を見開いていました。時代は変わりました。



【瀬加小中学校のプール】

◆プールの完成した年

今の瀬加小プール 昭和60年（1985）

旧プール 昭和43年（1968）

分校プール 昭和51年（1976）・平成元年（1989）改修

約35年前、現在の校舎と体育館といっしょにプールも新築されました。プールは瀬加中学校の生徒も共同使用しました。瀬加小中出身の保護者は、ほとんどがこのプールを使用されていると思います。分校のプールもかなり古くからありました。



40代半ば以上では、旧プールの記憶があると思います。そのプールは今の体育館のあたりにありました。これも小中学校の共同使用でした。今年60歳の人の場合は、小学校入学（本校）と同時に旧プールが完成しています。

さらにさかのぼってプールがない時代、それは児童の祖父母世代が該当するのでしょうか。その頃はいったいどこで泳いでいたのか？

「じいじの子どもの頃はな・・・」と語ってあげてください。親子間で孫子間で、水泳の今昔比較だけでも家族での会話がはずみます。

◆記念誌「まなびや」より

昭和43年度（1968）卒業生 内井さんの寄稿文より

私たちの小学校時代は夏休みになると各地区ごとに岡部川の指定された場所で泳いでいました。

上瀬加は通称スカ井ゆと言われている所でスカ井ゆの堰から上約30mぐらいまでの範囲で泳いでいました。ここは上に行くほど川が深くなっているので、おのずと下級生や水泳の苦手な児童は下の方で、上級生になると上の方で泳いでいた児童が多かったようでした。また体育の水泳の時間はこのスカ井ゆを利用したりもしました。

プールは少しぐらい雨が降っても使用できますが、川ばかりは台風が去ってから2～3日は水量が多く川に入ることができないことがありました。「今日、こんな晴れて暑いのに川の水が多いから泳がれへん」と子ども心に残念がった日もありました。

そんな中で、瀬加小学校にプールができたのは確か、私が小学校6年生の時だったと思います。（後略）

◆かつての上瀬加の水泳場＝新聞記事の放流場所

上の寄稿文の水泳場所というのは、学校近くの福林寺下の岡部川です。釜坂峠に向かう道路があり、岡部川には橋がかかっています。その橋の上流50mほどの所に現在は大きなコンクリートの堰があります。ここは昔、俵に砂利をつめて堰にしていたそうです。

さて、同じこの場所にて令和3年5月31日、ウナギを放流しました。話は1周回って最初の新聞記事にもどりました。

かつては地域ごとに遊泳場所がありました。下牛尾の河内なら「せつとぶ」という淵でした。ただし、現在ではいずこも川での遊泳は禁止です。